

吉見町立統合小学校 建設基本設計（案）説明会 実施報告書



説明会の結果

吉見町教育委員会では、令和7年2月に「吉見町立統合小学校建設基本設計（案）説明会」を開催しました。
保護者及び地域住民を対象に各地区公民館とフレサよしみにおいて、全6回開催し、延べ187名の方の参加がありました。

期日	場所	参加者数
2月13日（木）	西公民館	23名
2月14日（金）	南公民館	25名
2月15日（土）	フレサよしみ小ホール	47名
2月15日（土）	フレサよしみ小ホール	28名
2月18日（火）	東公民館	35名
2月19日（水）	北公民館	29名

質 疑 応 答 等

基本設計（案）に関すること

質問：エレベーターの大きさはどのくらいになりますか。

回答：法令等に基づく車いす対応のエレベーターを計画しており、給食コンテナの運搬と兼用する計画です。

質問：冷暖房設備は設置されますか。

回答：主に児童等が活動する普通教室、特別教室、体育館等について、冷暖房設備を設置する計画です。教室ごとに運転のオンオフや温度調節ができる個別空調方式を計画しています。

質問：窓ガラスへの安全対策について

回答：割れにくい学校用強化ガラスを採用し、飛散防止フィルムを貼るなどの安全対策を講じる計画とします。

質問：太陽光パネルを設置する計画だが、どのくらいの電力を予定しているのか。

回答：停電時に必要最低限の電力を確保する計画とし、蓄電池の整備も計画しています。

質問：心のケアを行う教室等は計画していますか。

回答：児童が安心して心の問題や悩み等を話せる環境を整えるため、保健室に隣接して教育相談室や校内適応教室などを計画しています。

質問：防犯対策について

回答：敷地外周部や校舎の出入口等に防犯カメラ等の防犯設備を設置するとともに、1階に事務室を配置して、不審者等の侵入などに対する安全対策を講じる計画とします。

質問：グラウンド整備はどのような整備を予定しているのですか。

回答：グラウンドの水はけを良くする排水整備等を計画しています。

質問：体育館部分の屋根の耐久性はどのようになりますか。

回答：耐震、耐雪や耐風などに対する安全性を確保するため、法令で定められた基準に基づき、設計を進めてまいります。

質問：防犯上、職員室が1階の方が良いと感じるが、2階にした理由は。

回答：2階に職員室を配置した理由は、中学校の職員室が2階にあるため、教職員同士の連携のしやすさ及び浸水想定区域を考慮し、浸水後の学校の早期再開という点を重視しました。また、児童の登下校やグラウンド、遊び庭の視認性を確保しやすくするため、北側に計画しています。

質問：非常（避難）階段について

回答：大階段のほかに4カ所の階段を計画しています。昇降口の近く、普通教室の西側と東側、2階体育館東側の外階段と、バランス良く配置することで円滑に避難できるよう計画しています。

質問：トイレはどのようになりますか。

回答：トイレは、学年ごとに男女別のトイレを整備し、大便器はすべて洋式（洋便器）とする計画です。

質問：ラーニングセンター（図書室）が中学校との共用施設とのことだが、中学校の図書室がなくなってしまうのか。

回答：小学校のラーニングセンターは、学びの核となる施設として、従来の図書室の機能に加え、個別の調べ学習やグループでの学習が行えるスペース等を確保し、立ち寄りやすく居心地の良い空間づくりに配慮した計画とします。中学校の図書室は残しつつ、中学生の利用も想定した計画としています。

質問：グラウンドを共用するとのことだが、円滑に授業ができるのか。

回答：グラウンドは、小学生と中学生が共用する計画です。
体育の授業は、必ずしもグラウンドを使用する授業ばかりではなく、体育館で行う授業や教室で行う保健の授業もあります。小学校と中学校には、それぞれ体育館を設ける計画ですので、適切な調整を行うことで、円滑に授業を進めることが可能であると考えております。
また、体育の授業内容によっては、適切に活動場所を分けることで、小学校と中学校が同時に使用することも可能であると考えております。

質問：グラウンドは狭くないのか。

回答：現在、グラウンドは約13,800㎡、遊び庭は約1,600㎡の計画です。
令和10年4月の見込み児童・生徒数を踏まえると、文部科学省が示す基準面積の約1.6倍の面積を確保しています。

質問：体格差がある中学生と小学生が同じ敷地内で施設等を共有することに不安がある。

回答：視察先の小中一貫校や義務教育学校で聞いた話では、中学生は小学生に対して優しく接しているなど、小学生を意識して学校生活を送っているとのこと。同じ敷地で生活することは、お互いの精神的な発達や社会性の育成にも効果があると考えております。

質問：小学校校舎には、図工室・家庭科室がなく、中学校の特別教室を使用する計画だが、専用の教室が必要ではないか。

回答：中学校には、美術室・技術室・家庭科室が2教室ずつあり、生徒数の減少により使用率が低く、施設の有効活用を図るため、共用する計画としました。他の自治体においても特別教室を共用している事例がありますので、参考にしながらより良い環境を整備してまいります。

質問：プールを解体し、敷地内にプール施設を建設する計画がないが、プールの授業はどうなるのか。

回答：中学校のプール施設は、施設の老朽化や教職員の負担軽減等の観点から解体する計画としました。プールの授業は、各小学校のプール、B & G海洋センタープール、武蔵丘短期大学プール、民間のプール施設の活用などを含め、小学校及び中学校の水泳指導のあり方について教育委員会で慎重に検討してまいります。

質問：プールの授業は、他の施設の利用を検討していることだが、何回ぐらい通うことになるのか。

回答：現在、プール授業は10時間程度で2時間連続で行っていますので、5回程度利用することを想定しています。

質問：統合小学校の計画地は、浸水想定区域になっているが、避難所として機能するのか。

回答：地域防災計画では、洪水時については、西の丘陵部や広域避難など、高台への早めの避難を呼びかけています。統合小学校の体育館は、浸水想定水位（3.2m）よりも高い位置に計画をし、避難が間に合わない場合の緊急避難場所として利用できるよう計画しています。

質問：浸水想定水位が3.2mとしているが、根拠はあるのか。

回答：国が示す1000年に1度の想定し得る最大規模の降雨に伴う荒川の洪水による浸水想定水位となります。

質問：外観について、周辺のまち並みとの調和も必要だが、小学校らしい色彩等も検討してほしい。

回答：ご意見として承り、そのような視点での検討もしてまいります。

通学等に関すること

質問：スクールバスの運行について

回答：通学は、原則、徒歩通学としますが、遠距離通学となる児童の支援を目的に、スクールバスの運行を計画しています。通学体制やスクールバスの運行に係る検討については、令和7年度より、保護者代表、学校の教職員代表、地域住民の代表の方で組織される統合再編準備委員会の総務部会で具体的な協議・検討を開始する予定です。
利用する児童の安全を十分に考慮し、すでにスクールバスの運行を行っている他の自治体の先進事例を調査・研究するとともに、保護者の御意見や地理的状况なども踏まえ、吉見町の実情に即した安全で円滑なスクールバスの運行を検討してまいります。

質問：バスの運転手が不足しているとの報道があるが、対策はあるのか。

回答：運転手不足の情報は、認識しています。運転手不足により、スクールバスが運行できないということにならないようしっかり検討してまいります。

質問：スクールバスについて、補助員等はあるのか。また、利用料を徴取するのか。

回答：令和7年度より、具体的な検討を開始する予定です。

質問：学校周辺の安全対策について

回答：児童生徒の登下校時の安全に配慮し、歩車分離が図れる計画といたします。また、安全対策として、路面標示や標識の設置など、関係機関等と協議を行い、安全確保に努めてまいります。

質問：小学生（児童）の主な登校門は正門で、中学生（生徒）の主な登校門は西門との説明だが、登校門の反対側から登校する児童・生徒もそのようになるのか。

回答：計画段階では、児童生徒の登下校時の安全に配慮し、できる限り通学動線を分けるため、主に徒歩やスクールバスでの通学となる小学生は、正門を登校門とし、主に自転車通学となる中学生は、西門を登校門とすることを想定した計画としていますが、開校後、学校運営の中で判断していくこともあると考えます。

建設費に関すること

質問：概算の建築費はどのくらいか。

回答：基本設計の段階なので、具体的な建築費は示せない状況です。参考となりますが、近年の他の自治体の学校建設の事例を申し上げますと、48万円／㎡から58万円／㎡となっています。今後も原油価格の上昇や円安などによる資材の高騰等の影響で見通せない状況です。

質問：大きな事業となるので、財政的には大丈夫か。

回答：国からの補助金等や有利な地方債（借入）を活用し、町が負担する金額ができる限り少なくなるよう財政部局と調整を図りながら、進めてまいります。

質問：総予算はどのくらいになるのか。

回答：現時点で総予算は示せませんが、予算が固まり次第、議会に提出してまいります。

学童保育所に関すること

質問：学童保育所はどこに設置されるのか。

回答：統合小学校の整備と合わせ、武道館を解体して武道館の敷地内に新築する計画としています。

質問：学童保育所の広さは。

回答：第三期吉見町子ども・子育て支援事業計画では、約160名規模の放課後児童クラブ（学童保育所）の整備を検討するとしています。

質問：学童保育所の遊び場はどうなるのか。

回答：学童保育所の土地利用計画において、活動（遊ぶ）スペースが不足する場合は、今回計画をしている統合小学校の「遊び庭」を利用することも可能であると考えます。

その他統合再編に関すること

質問：授業の開始と終了の合図はどうなるのか。

回答：現在、授業の開始と終了を知らせる方法として、チャイムが利用されておりますが、小学校と中学校は授業時間が異なり、同じ敷地内で活動をするため、統合再編後には新たな対応が必要であると考えております。他の自治体では、チャイムを鳴らさない方法、小学校と中学校のタイミングが合う時間のみチャイムを鳴らす方法、小学校と中学校でチャイムの音を変える方法などがあります。児童生徒が安心して学校生活が送れるよう、学校と協力して最善の方法を検討してまいります。

質問：ＩＣＴ教育について

回答：現在、児童には一人１台のタブレット端末を貸与し、授業等で活用しています。引き続き、ＩＣＴ教育設備を充実させ、教えやすく学びやすい教育環境となるよう計画してまいります。

質問：計画地周辺の埋設物（水路等）をしっかりと調査した上で工事等を進めてほしい。

回答：計画地周辺の現地調査を行い、埋設物等は把握しておりますので、計画的に工事等を進めてまいります。

質問：現在の各小学校は、地震時の避難所として指定されているが、統合後、各小学校は解体するのか。解体する場合、避難所はどうなるのか。

回答：現在、各小学校の体育館は、洪水以外の災害時の避難所として指定されており、平時においては、校庭も含め、生涯スポーツの活動の場として利用されておりますので、引き続き、町で適切に管理してまいります。
また、各校舎については、利活用の方法も含め、検討してまいります。

質問：武道館を解体した場合、利用している武道団体はどうなるのか。

回答：町の公共施設全体の総合的な見直しを図っていく中で、武道館機能の移転先を検討してまいります。

質問：解体工事を含めると工事が長期間となるので、中学生の教育活動に配慮した工事計画としてほしい。

回答：工事期間中は、学校・施工業者・教育委員会で調整を図りながら、安全対策を行うとともに、中学校の教育活動への影響を最小限に抑えるよう努めてまいります。

質問：令和6年3月議会で設置条例が否決されているのに進めているのはなぜか。

回答：令和6年3月議会で吉見町立小中学校設置条例の一部改正案は否決となりましたが、統合小中学校の基本設計・実施設計を含む令和6年度の予算については、議決されましたので、令和10年4月の開校に向けて事業を進めています。

質問：なぜ、1校に統合なのか。

回答：適正規模等検討委員会では、段階的な統合についての検討をしております。6校を2校に統合した場合、開校当初は、2学級を確保できるが、数年で1学級となる学年が出てくる想定となります。「クラス替えにより人間関係に変化を持たせることができ、友達もたくさんできる。」「多様な考えに触れる機会が多い」との理由で、保護者アンケートでは8割、教職員アンケートでは9割が、複数学級の望む結果となっていることから、協議・検討した結果、6校を1校にする結論に至りました。

質問：小学校の統合再編について、住民投票をする考えはあるか。

回答：教育委員会は、答える立場にありません。

質問：小学校の統合再編について、これまでどうやって町民の声を聴いてきたのか。

回答：令和4年10月から11月に「（仮称）吉見町立学校統合再編計画（案）説明会」を各小中学校体育館で保護者及び地域住民を対象に、また、フレサよしみで就学前の保護者を対象に、全15回開催するとともに、パブリックコメントを実施し、多くの町民の声を聴く機会を設け、取り組んできました。